



22 8. 10

商店主の高齢化や大型商業施設の郊外出店を受け、地方で進む中心市街の空洞化。危機感を強めた地元商店街が、医療や介護にかかわる施設と連携して人の流れを呼び戻そうとする動きが広がっている。特に高齢化率が高い四国や九州でそんな「医商連携」が活発だ。



商店街の空き店舗に設置された図書室で、血圧を測定する女性。7月、熊本市

再生へ「医商連携」

中心市街地空洞化対策の動き活発

▽医師会と認識共有

高松市の中心部にある「高松丸亀町商店街」は、R小倉駅北口に移転する小倉記念病院（北九州市小倉北区）は、中国やアラブ諸国の富裕層を対象に、同病院での先進的な心臓治療を目的とした医療ツアーを計画中。さらに北九州市小倉地

先進医療を「新規顧客」

預けて安心して買い物ができる。良い場所ができて助かります」とやわらかな笑みがこぼれる。

熊本市の「健軍商店街」は、医療、福祉、子育て関連の本を貸し出す図書室

▽移転で城下町危機

一方で病院城下町として栄えた街が病院の移転で危機に陥る事例も。老朽化などで2012年度に郊外移転する佐賀県立病院好生館（佐賀市）。

近くの「新道商店街」で、老舗の薬局を営む川内嘉昭さん（66）は「売り上げの9割が病院関連。移転したら店だけでは食べていけない」と嘆く。

地元開業医集まり

ワンストップ医療

海外富裕層対象のツアーも

つくようになり、近くに住む高齢者が日用品購入に苦労する状況も。医療機能を集めてワンストップサービス化し、再開発の核にしたいと考えた。

商店街振興組合の熊紀三夫専務理事は「市街地の医療が過疎化しているとの認識を、県医師会と共有できたことで計画が

若し母親が本を読み聞かせるうちに、寝息を立てる幼児ら。「子どもを

▽福祉や子育ても

は、それぞれ24〜26%台。ピンチを回避できるか。

永忠康教授は「高齢化が進む中、医療を媒介に中心商店街を交流の核として盛り上げることができると期待する」。

熊本市の「健軍商店街」は、医療、福祉、子育て関連の本を貸し出す図書室

一方で病院城下町として栄えた街が病院の移転で危機に陥る事例も。老朽化などで2012年度に郊外移転する佐賀県立病院好生館（佐賀市）。

近くの「新道商店街」で、老舗の薬局を営む川内嘉昭さん（66）は「売り上げの9割が病院関連。移転したら店だけでは食べていけない」と嘆く。